

KCJS29 2017 年秋学期 日本語 E クラス (4 年生)

担任 (coordinating instructor) : 中村伊都子

オフィス/電話番号/メール : F203 (扶桑館) /075-251-4996/in2008@columbia.edu

オフィスアワー : 必要に応じて (事前に連絡すること)

副担任 (Sub-instructor) : 中田かおり kn2345@columbia.edu

授業時間 : 月~金 9:30-10:30 & 10:40-11:30

教室 : F213

<KCJS 全体の目標>

The objective of KCJS's Japanese Program is to enhance the student's communicative competence and to enable professional and personal interaction with members of Japanese society in ways that are culturally readily acceptable. In particular, a KCJS student will come to:

1. Understand the intentions of others when Japanese is spoken;
2. Understand the intentions of others when written materials of various genres and media are presented;
3. Control the use of Japanese expressions, both spoken and written, in order to fit the socio-cultural settings and purposes of communication;
4. Expand the modes of communication used to include such genres as formal presentations, negotiations, projects, the organization of events, and their follow-up.

<このコースでの今学期の目標>

- 日本文化の理解を深め、日本語の運用能力を向上させる
- 多文化理解を深める

<目標達成のための発想の転換>

- 「教わる」から「学ぶ」へ、「銀行型」から「実践」へ
- 自分をとりまく環境全てが学びの場、いつでもどこでも学習
- 自分をとりまく全ての人が先生

つまり、五感で学ぶ (視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚)

観察から学ぶ

試行錯誤 (trial & error) を通して学ぶ

人から学ぶ (聞く、質問する、真似る)

人と学び合う (知識を共有する)

いつでもどこでも主体的に、積極的な姿勢で学ぶ

いつでもどこでも誰とでも日本語を使う

習ったことを積極的に使う

間違いから学ぶ

常にチャレンジする (難しいと感じることをする、難しいと感じる形です)

予習を通し、何が分からないかを把握した上で授業に来る

復習し、分からなかったところが分かるようになったかどうかを確認する

<目標の達成方法>

- 地域参加型プロジェクト (Community Involvement Project)
- 日本の大学生との協働
- ホストファミリーや友達、ランゲージパートナーへの聞き取り調査
- 個人プロジェクト

- ・ 個人プロジェクトを通して自分が学んだことの共有
- ・ ゲスト講師による講義
- ・ 多読
- ・ 教師-生徒間の密なフィードバック

<詳しい学習目標>

1. 日本人のために書かれた様々なジャンルのテキストを精読^{せいどく}して、クリティカルに読めるようになる。また、分からない言葉や文法があっても、文脈^{ぶんみゃく}から意味を推測^{すいそく}して理解を深められるようになる。
2. 日本人のために書かれた様々なジャンルのテキストを速読^{そくどく} (rapid reading i.e. scanning and skimming)して、必要な情報や要点を取ったりできるようになる。
3. 多読 (extensive reading) を通して、日本語のテキストを楽しく読めるようになる。また、短い間にたくさんの量が読めるようになる。
4. 日本語でのコミュニケーションにおいて、分からないことを質問したり、自分の理解が正しいかどうか確認したり、時には推測^{すいそく}によって補^{おぎな}いながら、理解を深められるようになる。
5. 詳しく説明したり、描写^{びようしゃ}したり、説得力^{せつとくりょく}のある意見を述べたりできるようになる。
6. 相手に伝わる文章を書けるようになる。
7. 映像作品^{えいざう}や話題のニュースを理解し、それについて話したり、意見を述べたり聞いたりできるようになる。
8. 漢字熟語^{じゆくご こうせいようご}の構成要素から、熟語の意味が推測できるようになる。
9. 相手や場面にあわせ、適当な話し方ができるようになる。
10. 読み教材、聞き教材や、『Kanji in Context』から日常語彙^{じつじょうご}、抽象語彙^{ちゆうしやうご}、漢語彙、文法・表現を増やす。
11. 独学の仕方を身につける。

<成績うちわけ>

授業 (30%)	出席・参加 (準備、積極性 ^{せつきよくせい})	15%
	宿題	15%
小テスト・試験 (50%)	小テスト (漢字、単語)	15%
	試験 1、2、3	35%
プロジェクト (20%)	地域参加型プロジェクト (CIP)	10%
	プロジェクト・期末発表	10%

100 – 94.0 A	93.9 – 90.0 A-	89.9 – 87.0 B+	86.9 – 83.0 B
82.9 – 80.0 B-	79.9 – 77.0 C+	76.9 – 73.0 C	72.9 – 70.0 C-
69.9 – 67.0 D+	66.9 – 63.0 D	62.9 – 60.0 D-	59.9 - F

<小テスト>

1. ほぼ、毎日 9時半から 9時40分 の間にクラスで行なう。遅刻^{ちこく}をしても時間の延長^{えんちやう}なし。
2. 漢字テスト：単語テストがない日は、毎日「意味」と「読み&書き」の小テストを受ける。
『Kanji in Context』から赤字^{しやくつだい}のものが出題される。
3. 漢字まとめテスト：漢字テストの3、4つ分から出題される。
4. 単語テスト：クラスで読んだ読み物から出題される。

<決まりごと>

1. 遅刻と欠席について

- ・欠席する時は、担任に電話かメールで必ず連絡すること。075-251-4996/in2008@columbia.edu
- ・遅刻と欠席は、授業ごとに数える。(例 1日休んだら2回欠席)
- ・欠席した場合、出席点、参加点が0点になる。(ただし、学期末に点数の低い順から6回分の出席点・参加点を落とす。)
- ・1分でも遅れたら、その授業は「遅刻」の扱いになり、出席点・参加点が下がる
- ・20分以上遅れたら、「欠席」の扱いになり、出席点・参加点が0点になる。
- ・授業を七回以上休んだ場合は、日本語のコーディネーター(西俣先生)に書面で理由を説明すること。

2. 小テストや試験について

- ・小テストは、ほぼ毎日9時半から9時40分の間にクラスで行なう。遅刻をしても時間の延長なし。
- ・休んだ日の小テストは後で受けることはできない。試験は、やむをえない事情で欠席した場合だけ、後で受けることができる。
- ・私用の旅行は、やむを得ない事情ではないので、試験は受けられない。

3. 宿題

- ・しめきりまでに宿題を出す。遅れた場合はチェックするが、点数はもらえない。
- ・明らかにきちんと宿題をしていない場合は、「incomplete」と見なし、点数はもらえない。
- ・大切なポイントで間違いが多い場合は、やり直しをしなければならない。試験日までにやり直しをしなければ7割しか点数をもらえない。
- ・宿題は、自分一人の力ですること。他の人を見たり、他の人に直してもらったりしてはいけない(ただし、ピア・エディティングは除く。)

4. その他

- ・他のルールに関しては、このページを読むこと。<http://www.college.columbia.edu/ccschonorcode>
- ・教室では食べ物を食べない。

<個人プロジェクト>

- ・自分の興味や目標に合わせて、各自課題を決めて、一学期を通して自分のペースで取り組む。
- ・隔週30分の個人指導の際、進捗状況しんちょくを報告したり、質問したりする。
- ・学期末に個人プロジェクトを通して学んだことをクラスメートと共有する。

<期末発表としての『授業』>

目標：クラスメートに自分が知っていることを、レジメを使って分かりやすく教える

授業の内容：自分が個人プロジェクトを通して学んだこと（①か②のどちらか）

①一般的なこと（例 自習をする上で効果的なストラテジー、日本語と英語の表現方法の違い、翻訳する上での難しさ、ロールプレーゲームの特徴 等）

②特定のこと（例 擬音語・擬態語ぎおんご ぎたいご、役に立つ文法・表現、英語に翻訳できない日本語、話し言葉特有の表現 等）

課題：1) 準備

- ・内容を考え、まとめる（原稿を書きたい人は書いてもいい）
- ・レジメを作る（注意：今学期習った文法をできるだけ使うようにすること！）

授業の内容の評価基準ひょうかきじゆん（全体の40%）：

内容の濃さ（70%）			文法使用度	構成の分かりやすさ
学ぶ事がある	例がたくさん挙げられている	詳しく説明されている		
30%	20%	20%	20%	10%

課題：2) 持ち時間 30分しつぎおうとう（質疑応答を除）

- ・原稿を読まないで話す（インデックスカード使用可）
- ・アイコンタクトをし、聞き手とコミュニケーションを取りながら話を進める
- ・大きい声で分かりやすく話す
- ・どんな質問をされるか予想して、上手に答えられるように準備しておく
- ・発表内容に関する質問を必ず1つ聞く

評価基準：

発表の内容		40%
レジメの分かりやすさ		5%
発表の準備	個人指導の準備	5%
	リハーサルの準備	5%
発表の質	アイコンタクト	5%
	コミュニケーションが取れたか	15%
	分かりやすさ	15%
しつぎおうとう 質疑応答	上手に質問ができた	5%
	上手に答えられた	5%

かだい

- 課題の流れ：1) 授業の内容の提出（11月27日）
2) 個人指導 1人30分（11月27日～29日）
3) レジメ下書きの提出（12月4日）
4) リハーサル&レジメ下書きやり直しの提出（12月6日）
5) 期末発表としての授業&レジメ最終稿^{さいしゅうこう}の提出（12月7日）

発表の内容

下の1)と2)の以下の①～②の問いの回答を簡条書き^{かじょうが}で書く。

提出日：11月27日（月）

1) 発表のテーマ

①自分が個人プロジェクトを通して学んだことで、クラスメートに知ってもらったら役に立つだろうと思うことは何か。（1か2のいずれかを選ぶこと）

1. 一般的なこと

（例 ロールプレイングゲームの特徴）

- どんな特徴を挙げるか（他のジャンルのゲームとの比較）
- それぞれの具体例
- 具体例を見せる手段

あるいは

2. 特定のこと

（例 役に立つ文法・表現）

- どんな文法と表現を扱うか
- それぞれの例文
- どんな文法・表現練習をするか

②なぜそれが役に立つと思うか。

かだい

- 課題の流れ：1) 授業の内容の提出（11月27日）
2) 個人指導 1人30分（11月27日～29日）
3) レジメ下書きの提出（12月4日）
4) リハーサル&レジメ下書きやり直しの提出（12月6日）
5) 期末発表としての授業&レジメ最終稿^{さいしゅうこう}の提出（12月7日）

発表の内容

下の1)と2)の以下の①～②の問いの回答を簡条書き^{かじょうが}で書く。

提出日：11月27日（月）

1) 発表のテーマ

①自分が個人プロジェクトを通して学んだことで、クラスメートに知ってもらったら役に立つだろうと思うことは何か。（1か2のいずれかを選ぶこと）

1. 一般的なこと

（例 ロールプレイングゲームの特徴）

- どんな特徴を挙げるか（他のジャンルのゲームとの比較）
- それぞれの具体例
- 具体例を見せる手段

あるいは

2. 特定のこと

（例 役に立つ文法・表現）

- どんな文法と表現を扱うか
- それぞれの例文
- どんな文法・表現練習をするか

②なぜそれが役に立つと思うか。

課題の変更

<成績うちわけ>

授業 (30%)	出席・参加 (準備、積極性) ^{せつきよくせい}	15%
	宿題	15%
小テスト・試験 (50%)	小テスト (漢字、単語)	15%
	試験 1、2、3	35%
プロジェクト (20%)	地域参加型プロジェクト (CIP)	10%
	プロジェクト・ 期末発表	10%

プロジェクト：政策学部生との協働

- ①新しいグループと一緒に英語で政策提言書(policy proposal)を作成する
- ②12月5日に発表する

KCJS 生のタスク

- みなさんは、京都で安全に生活するために知っておくべき重要な情報をどの程度把握していますか。留学生の視点から、同志社大学のキャンパスや地域社会でどんな「情報格差」を感じるか政策学部生に伝えましょう。防災に関する情報だけでなく、日常生活全般に関する情報であれば何でもいいです。
- 自分の出身地や大学、そのコミュニティで、英語が不自由な外国人の「生活の安全」を確保するために、どのように情報提供がされますか。あるいは、されていませんか。誰が中心になって、どのような方法で情報提供が行われているか、どのような工夫がされているか詳しく説明をしましょう。
- 定期的に同志社生と意見交換をして、彼らの政策提言内容について意見を伝えましょう。
- 11月26日のフィールドワークで「人と防災未来センター」に訪問する際、広報の仕方に着目しましょう。外国人に対してどんな配慮がされているか、または、配慮が不足だと感じた点を同志社生に伝えましょう。
- Policy Proposal (提言書) を作成する上で、内容やフォーマットに関してフィードバックをしましょう。また、自然な英語にするのを手伝いましょう。

課題

- 12月5日にプレゼンテーションを実施 (各グループ10分、質疑5分)
- 各グループから KCJS 生と政策学部生の代表が発表すること

1. 課題分析：現在、同志社大学で学ぶ留学生はどんな「情報格差」に直面しているかを説明する (主に防災分野を対象とするが、必ずしも防災に特化しなくてもよい)
2. 上記課題を解決するために、どんなところに働きかけを行えばよいか。学内の各部署、学生組織、生協、学外組織 (自治体 etc) など、できるだけ多くのチャンネルを挙げ、それぞれのチャンネルを使うことのメリットとデメリットを述べる
3. Policy Proposal (提言書)：上記の事項を留学生や地域の外国人にフィードバックするために、英文で A4 用紙 2 枚程度の提言書を作成する (大学の広報課などを招くので、できるだけわかりやすく現実的な提言書とすること)
4. 方法論：このプロジェクトを進めるにあたりどんな人から話を聞いたか、どんな資料を活用したかを述べる
5. 発見：このプロジェクトを進める中で、どのような「異文化」に気づいたかを述べる

グループ分け

スタッグス, Chika, Sora, Shuhei

ウィンターズ, Taichi, Yuki, Aoi

コウ, Taki, Koki, Moeka, Sakura, Shogo

キム、Nagisa, Kazuki, Rio, Nanako K., Sota

期末発表の代わりに

③授業で扱いたい読み物を選び、読み（1時間）と話し合い（1時間）の活動をリーダーとして進める

読みの時間の役割：内容を理解しているか確認

話し合いの時間の役割：問いを準備し、ファシリテーターとして話し合いを進める

< 1 1 週目・11/20-11/24> キムさん

< 1 2 週目・11/27-12/1> _____

読み物を選ぶ締切（11/18 土）

< 1 3 週目・12/4-12/8> _____

読み物を選ぶ締切（11/25 土）